



「Z(A) まごと、物を手取りながら出ます。」20~21と下向へ出張  
でした。在着者は当然で今まで恩意意識はあると思います。ただ従業員さんまで  
押し付けても「うな」とか、「いつの日か今から頂けるその日からくるであろうと念  
じながら心の教育はやり続けて参ります。」 2013.4.20~4.26

「お自身もいつも恩意を感じ化すに心がけます。  
あります。ついで心の下向に想いは持つづけたいものです。」 817号

介護施設の運営サービス事業を十数年前に  
興した女性社長のK氏は、地域の人々から愛  
されています。日頃から周囲の人々への奉仕  
の心を忘れず、地域の人たちに恩返ししたい  
という思いで働いているからです。

S氏は十数年前、役員として勤めていた会  
社が倒産し、職を失いました。結婚して間も  
ない頃に倒産してしまい、その惨事を一身に  
被つたため大変苦しい状態でした。駄目にな  
りそうなS氏に手を差しのべたのが、K社長  
だったのです。

S氏は助けてもらつた恩に報いるために  
ガムシャラに働き、また早くにガンで亡くな  
った両親にもできなかつた介護を地域の高  
齢者に施したいという使命感から、献身的な  
気持ちで介護事業に取り組みました。

そんなS氏がずっと気がかりだったのは、  
倒産した会社に勤めていた時の部下である  
Yさんの存在でした。素直な人柄のYさんは  
介護に向いていると思い、「彼を採用してほ  
しい」とK社長に掛け合いました。しかし、  
まだ軌道に乗つていらない事業であり、雇うの  
は難しいと告げられたのです。それでもS氏  
は「私の給料を半分にしてでも彼を働かせて  
ください」と懇願しました。その熱意に押さ  
れ、K社長はYさんを迎えたのです。



絵・今谷 鉄柱

長野県I市で介護用品専門の店舗経営と  
理法人会の後継者セミナーへ送り出すなど、  
一人前に育てようと尽力しました。

その後、一人前に仕事ができるようになつ  
たYさんは、セミナーで学んだ「親とのつな  
がりを強く持つ」を行動で示すことがK社長  
への恩返しであると捉え、母親を「経営者モ  
ーニングセミナー」に誘いました。すると母  
親は快く参加してくれたのです。

何よりも嬉しかつたのは、母親が知り合い  
の会社の経営者を誘つて、一人で楽しそうに  
参加していた姿だといいます。わがままばかりのYさんでしたが、「改めて母親との太い糸  
を感じている」と振り返ります。このような  
思いに至つたのも、現在の介護会社に導いて  
くれたS氏、それを大きな愛情で受け入れて  
くれたK社長、ここまで導いてくれた周囲の  
人のおかげであるという恩意意識を、Yさんは  
常に忘れないK社長に告げたのです。

社員の心に『感謝の気持ち』『恩を感じる  
心』『誰かのお役に立ちたい』との思いが芽  
生えなければ、真の意味でお客様の心に届く  
対応ができるのではないかでしょうか。

恩意意識に芽生えた社員が増えれば、事業は  
順調に展開していきます。地域や社会が必要  
とする存在になるからです。社員教育は一朝  
一夕にはできません。経営者の強い報恩の思  
いと行動が少しずつ浸透し、それがやがて企  
業風土として定着します。長い目で見ると、企  
業の教育が会社の芯を強くするのです。